

令和2年度学校自己評価システムシート (県立大宮南高等学校)

目指す学校像	文武に秀で、主体的に学び、社会に貢献する生徒を育成する学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 主体的な学びを育み、学力を向上させ、第一希望の進路実現を推進する。 2 特別活動と部活動を充実させ、社会貢献の資質を育てる。 3 安心・安全で開かれた学校づくり。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	14名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 校種別の進路実績には従来から大きな変動はないが、四大志願者に推薦入試を指向する割合が高まっている。 【課題】 進路に向けた学習方法や受験までの学習計画について充分自己分析できていないまま取り組んでいる生徒が散見される	第一希望の進路を実現させる	①大学入試制度の変化に対応した進路指導計画の策定 ②個に応じた的確な情報提供と継続的な支援の実施 ③段階に応じたきめ細かい進路指導の実施(3年:受験に向けた雰囲気づくり、1、2年:次年度科目選択指導)	①大学入試制度の変化に対応した計画を策定できたか ②生徒が主体的に進路研究に取り組んだか ③段階に応じた進路指導が実施できたか	①予定していた進路行事、ガイダンス等は、講演会方式だけでなく、放送やオンラインなど状況に応じて臨機応変に対応した。 ②臨時休業期間中には、全校生徒と担任がメールでの連絡体制を確立。オンライン面談も導入し、各々の意識を高めさせた。 ③臨時休業期間中の次年度科目選択にあたっては説明動画を用いるなどにより対応できた。	A	・推薦入試に加え、新たに実施された総合選抜型入試での受験を利用する生徒が多いことから、これらに向けた取組を一般受験に向けた取組とともに充実することが必要。 ・令和3年度入学生から中学校で作成した各々のキャリアパスポートが提出されるので、進路指導に活かす。
	【現状】 家庭学習時間に二極化の傾向が見られるなど、全体的な底上げが必要 【課題】 近年、公募推薦やAO入試を複数回挑戦したり、一般受験で相当数の大学を受験する生徒がみられることもあり、あらゆる入試に対しても学力の向上が必須	学習の基礎となる授業の質の向上と家庭学習時間の増加	①学力定着のために授業時数増を推進するとともに、年間計画に基づいた授業の確実な実施 ②主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を通じた学力向上の実践 ③課題や予習、朝学習推奨等による家庭学習時間の向上	①年間授業時数を増加させるとともに、年間計画に基づいた授業を実施したか ②指導の工夫により、あらゆる受験形態に対応できる学力を育成できたか ③生徒の学習時間は増加したか	①例年より長期休業日を年21日減し、行事精選も行うことで、年間授業時数を例年並に確保できた。 ②多くの科目でグループ協議や実験を問題演習に変更し、プリントや映像活用で効率化を進め、学力向上につなげた。 ③臨時休業中での学校ホームページ掲載課題は、動画教材だけで計106本提供。生徒全員が毎日メールで学習状況を担任に報告する体制としたこともあり、1学期の家庭学習時間は大きく向上した。	A	・1学期大幅に向上した家庭学習時間は、2学期に例年並みに低下。家庭学習習慣の確立されていない生徒には家庭の協力を一層得ながら危機意識を高めさせることが必要。 ・コロナに伴い計画的・効率的な授業展開が自ずと必要となり、各教員が授業改善に取り組んできたが、指導方法の好事例を共有するなどして、引き続き進路希望に対応した授業改善が必要。
2	【現状】 高い部活動加入率と熱心な活動を通じて、自律した学校生活を送る生徒が多い 【課題】 部活動未加入者や、進路決定後の生徒等に対する指導や支援の機会の拡大	社会貢献の資質育成につながる指導の確立	①顧問と学年等の連携による部活動加入促進と、個に応じた活動の支援 ②生徒の主体的な参画による生徒会行事の実施 ③基本的生活習慣確立に向けた指導の実施	①生徒が積極的に部活動に参加できたか ②実施後の生徒の満足度は高いものであったか ③遅刻者は減少したか	①年度当初は活動できなかったが、例年以上の87.2%が部活動や生徒会等に加入。(前年度86.4%) ②文化祭は実施できなかったが、代替行事である文化部等の動画鑑賞会(鑑翔祭(12月))では、例年の文化祭よりも高い評価を得た。 ③遅刻者数758人。(前年度832)	A	・部活動や生徒会活動は社会性や自律の精神を養うだけでなく、学校の活性化や生徒募集にも影響することから、引き続き顧問間で指導方法のノウハウを共有するなど指導の充実を図る。
	【現状】 SNS等を通じた生徒間トラブルや登下校中の交通マナーについて指導を行う状況が発生している 【課題】 自転車の安全運転及び登下校の交通マナー、ネットモラルについては、特に指導徹底が必要	生徒間トラブル及び交通事故防止の徹底	①情報モラルや交通安全に係る指導の実施 ②生徒指導や学校安全に係る教職員研修の実施 ③教職員間の連携によるいじめ未然防止の徹底	①生徒トラブル及び交通事故件数は減少したか ②研修の実施により事案が生じた際に迅速に対応できたか ③いじめゼロを継続できたか	①ネットトラブルは発覚後迅速に注意喚起等実施。交通事故は、欠席を要した負傷事故0件。 ②生徒の支援を第一に、スクールカウンセラーや児童相談所等と連携しながら懸案に対処した。 ③いじめ発生は0件。未然防止のために生徒指導(10月)及び情報モラル(11月)に関する職員研修、生徒にはネットマナー等の非行防止教室(12月)実施。	A	・安全・安心な学校づくりを継続して取り組む。 ・引き続き、入学時からネットモラルを重点的に指導する。 ・引き続き、交通事故防止及び交通マナー遵守の徹底を指導する。
3	【現状】 7割の生徒がさいたま市在住であり、地域に根ざした学校と位置付けられている 【課題】 保護者への情報提供手段としての県公式アプリ登録が8割弱に留まっている	保護者の県公式アプリ登録割合を向上させる	①学校ホームページの積極的な活用による様々な教育活動の紹介 ②中学生のニーズに対応した生徒募集活動の工夫 ③県公式アプリ登録促進の取組	①効果的な情報発信ができたか ②生徒募集活動において新たな工夫ができたか ③県公式アプリの登録割合は向上したか	①保護者には行事等の迅速な報告ができたが、中学生向け広報については情報量が少なかった。 ②部活動体験参加生徒保護者に、部活動だけでなく本校の全般的な概要も紹介する場を設けた。 ③県公式アプリ登録要請を複数回行った結果、登録者は1月末現在1357名。(前年度858名)	B	・生徒会執行部、放送部の生徒が作成した学校紹介動画は完成度が高いが知られていない。このように本校を効果的にPRできる素材は、早い時期からホームページ等で活用する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト移行対策は十分だったか。 ・今後も企業や大学でオンライン授業や在宅勤務等が定着する可能性があり、良い経験ができたのではないか。 ・進路に関するアンケートの回数を増やすと相談しやすくなるのではないか。 ・推薦受験者が多いので、模試以外に面接や小論文対策の指導体制は必要。 ・何も対策せず模試を受けている生徒もいるようであり、意識付けなどの事前指導が必要。 ・コロナの影響で家庭学習の重要性は増している。臨時休業期間中は、「自分でどうにかしなければいけない」という意識で学習に取り組んでいた。 ・コロナ対応の中、年間授業時間数を確保できたことは良かった。 ・今後はリモート授業の対応もさらに必要と予想されるが、学校としてどう推進していくかの見通しがよく分からなかった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方改革の概念もある一方、部活動や生徒会活動は、人と人との繋がり、接し方を育むのに必要なので、引き続き指導をお願いしたい。 ・試行錯誤の末、震災学習させる地域に変更して修学旅行を実施した決断にはなかなかの苦労があったと思われる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の社会情勢では、一人一人の生徒とのコンタクトがより必要と思われる。 ・何が真実なのかを見極める目を持たせる情報教育の継続と、ネット社会との上手な関わり方を教えることは必要。 ・交通指導に対しては力を入れているが、もっと生徒に意識させるべきである。 ・生徒の方から挨拶してくれるので、良い環境ができていていると感じる。 ・生徒会が作成した学校紹介ビデオは、本校の魅力が詰まっている。 ・受験生と親は学校を直接見て触れたい、どんな生徒がいるのかわかりたいと考えており、機会を多く設け、中学生との関わりを増やすべき。 ・コロナ後はネットツールの利用が加速する。ホームページのさらなる充実を図るべき。 	